

連想情報儀 – 類似情報地図の作成 –

Associated Information Sphere, A Composition Technique
for Similar Information Maps

准教授 矢口 勇一



[概要]

情報の分類・検索・可視化を行おうとすると、『関係のあるもの』を近くに、そうでないものを遠くに置いた地図を作ると便利に使えます。球面上に配置すれば、Web等を通しても見やすく、また地球儀を回す感覚で情報の探索が可能となります。

連想情報儀は、Webページのリンクや文章・単語の共起、文章に貼りつけられた画像や映像などの『関係グラフ』の情報を球面化し、この球面上でキーワード、音声、画像、映像、Webページ等の各種メディアの情報を一覧できるように再配置して見やすく提供する技術です。

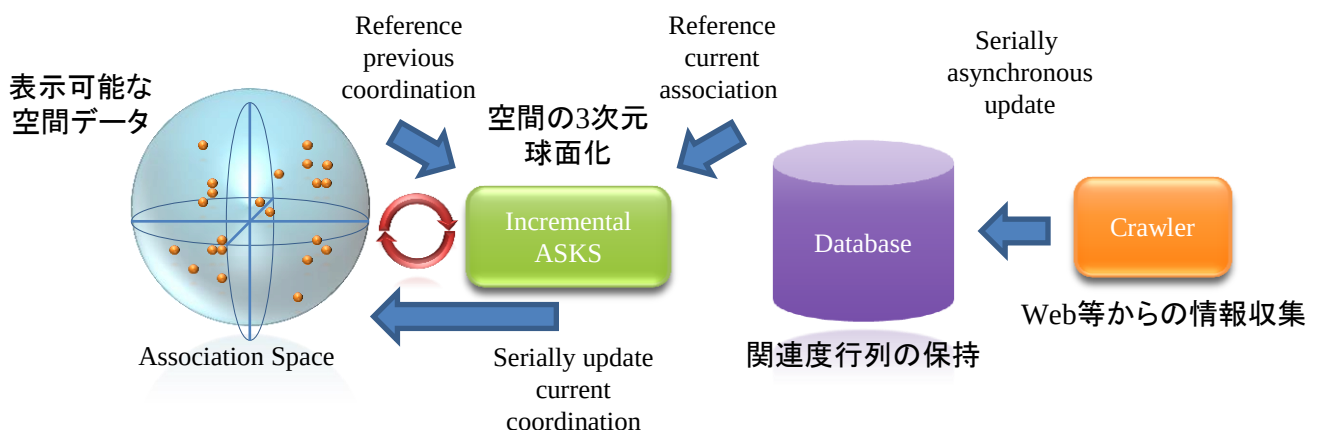
[実用化の可能性]

文字や文章のみならず、画像や映像、音声等を一覧できるようにするこの技術は、情報の一覧・可視化ツールとして、一度検索した語やデータから、類推される情報を一度に取得する事が出来るため、膨大なデータの中からの探索等に役立ちます。

[UBICからのメッセージ]

整理整頓することにより欲しいものがすぐに見つかります。これをソフトウェアで実現するのが狙いです。

[研究概要図]



意味の似たデータを集めれば、すぐに欲しいモノが見つかる